令和７年度　　園評価書

園番号　46　園名　静岡市立辻こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心身ともに元気な子	大事にされ認められて『ヒト・モノ・コトとつながろう』	子どもが自分の思いを表現しながら、友だちや保育者など身近な人とのかかわりを楽しんでいる	保育者との信頼関係が深まり、子どもは安心して自分の思いを言葉やしぐさなどで表現している。同じクラスの友だちだけでなく、異年齢児や保育者とのかかわりも広がり、身近な人との関わりを楽しんでいる	A	A	・中間評価で出た具体策を実践し、先生たちの中でも成果が感じられているのだと思う ・Aに評価を持っていくことに遠慮する人は多いと思うが、評価をAにする職員が増えているということはとてもいいこと	・遊びや生活の中で、子どもの言葉やしぐさを丁寧に受け止め、気持ちを大事にする関わりを意識していく。 安心して思いを出せる関係性を土台にしながら友だちとの関わりが広がるようにしていく
		子どもが玩具や教材など身近なものを大切にしようとしている	・玩具や教材の置き場を、子どもが使いやすいよう定期的に見直したことで、子どもたち自身が出し入れや片付けを行おうとする姿が見られる。また保育者の意識の変化に伴い、園全体で大切に扱おうとする姿も感じられる	B	B		・今年度取り組んできた環境づくりを継続的に行っていく ・片付けを「やらせるもの」ではなく、遊びの1つとして捉え保育者は子どもと一緒に関わりながら進めていく
		子どもが様々なことに興味関心を持ち自らかかわろうとする姿が見られる	・遊びや生活、行事に積極的に関わり楽しむ姿が見られる。わからないことは自分で調べたり聞いたりする姿がある ・興味関心を引き出す環境の工夫により「やってみたい」と自ら関わる姿が多く見られるようになった	B	A		・園内研修や、クラス会議、幼児・乳児会議、リーダー会議等で定期的な実践の共有をし、環境構成や教材の工夫や、子どもの姿を基に振り返る機会を設けることで、園全体として保育の向上を図っていく

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園は一人一人の発達や経験に合わせた適切な援助を行っている	教育課程、月間指導計画などを基に、一人一人の発達や性格、家庭環境なども考慮し、教育・保育を行っている。月に１度職員会議で各クラスの様子や、配慮していることなどを共有する機会を設けている。幼児・乳児会議を定期的に、リーダー会議も随時行っている	A	A	・保護者アンケートの中で、職員の連携にCやDをつけている方が若干でもいるということは、連携ができていないと思っている保護者がいるということ。津波の際の避難所の意見も出ていたので、今後複数の想定もふまえ、実際に避難行動を行った結果をもとに、状況に応じた避難場所の考え方を保護者に丁寧に伝えていく必要がある ・小学校の津波警報が出た際の児童の留め置きの件もそうだが、アレルギー対応についても、こども園と学校との方針の違いを感じる。こども園運営課と学校教育課など、所管課の情報共有を行っていくことが望まれる ・こども園でも、小学校でも特性を持つ子が増えているが、保護者の偏見や理解が十分でないことにより、医療等専門機関につながらないことが多い。外部の方の話のほうが入りやすいと思うので、「きらり」など専門の方に保護者を対象に講話をしていただくなどの取り組みを検討していくことも一つの方法である ・一人の職員に負担が集中しすぎないよう、支え合える体制を整えていくことが望ましい。小学校では『チーム担任制』と『教科担任制』を導入した。そうしたことで他の職員が補うことができる。主となる人を支える体制を作ることで子どもをより多面的に見ることもできると思う ・S型デイサービスに参加されている方から、園児が来てくれることが嬉しく楽しみにしているという声を聞いている。地域の活性化にもつながると思うので次年度もぜひ訪問してほしい	・クラス担任だけでなく、フリーや保育補助員、調理員など職員間の情報共有をこまめに行う機会を設けていく ・各クラス担任が前後の学年とのつながりを意識した教育、保育計画を計画し実施する
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園は一人一人の生活の流れや体調を家庭と共有し、子どもが安心して過ごせる場を作っている	送迎時やコドモンでの日々のかかわりや各家庭との面談を通し、保護者とこどもの姿を共有している。早遅番、土曜日に使用する保育室の環境や玩具の見直しを行い、職員間での引き継ぎを丁寧に行った	A	A		保育者が安心できる存在となるよう家庭とのやり取りを丁寧に行う。コドモンを介して保護者と十分なコミュニケーションを取ることができるよう、ICTの分掌を作りタブレットの扱い方についての園内研修を計画的に行う
	(3)環境を通して行う教育及び保育	園は子どもが使いたい素材や道具を選び、継続して遊ぶことのできる環境を整えている	・期の構想会議や研究保育での話し合いをもとに、季節に応じた遊びや可動遊具、自然物を活用した環境構成を行っている。また、子どもたちの興味や遊びの広がりを大切にしながら、素材や道具を使いやすく整えている	B	B		・子どもたちの発達や興味を大切に受けとめ、育てたい姿を意識した環境づくりを進めていく。あわせて、年間を通した見通しを持ち、月ごとに経験してほしい内容や素材を整理し、計画的な環境構成に取り組んでいく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園の職員一人一人が安全・危機管理の意識を持ち、連携しながら状況に応じた対応をしている	予告なしの避難訓練、不審者訓練を増やしたことで職員一人一人の危機管理意識が高まっている。訓練に地震の揺れを疑似体験できるマットを使用したことで子ども達の意識も変わってきた。ヒヤリハット報告用紙の書式を変更し提出を呼びかけると提出率が上がった	B	B		・様々な想定の訓練を企画、実施し、その後の振り返りまで確実に行う ・ヒヤリハット報告後、タイムリーに内容を職員間に共有し周知する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は健康に過ごすための基本的な生活習慣や食への関心が持てるよう、日々の保育とつながる食育活動に取り組んでいる	基本的生活習慣が身に付くよう、歳児や個々に合わせたかかわりや支援を日々繰り返し行っている。月1回の食育の日（幼児）は給食室と連携し、子どもがより食に興味を持てるよう内容を工夫した。食育の教材を乳児クラスを含めて掲示し、様子をコドモンで発信している	B	A		日々の保育の中で食に関する絵本や紙芝居などの教材を取り入れていく。栽培、クッキングだけでなく多様な視点から食育を捉え計画、実施していく。また外部機関とも連携し食育活動を進めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は一人一人の発達や特性を理解し、その子に合った支援の仕方を職員間で共有している	子どもの発達や特性に応じた指導計画を作成し一人一人に適した支援を行っている。担当者会議の中で、リタリコの教材を活用し様々な支援方法についての研修を行った。職員間で一貫した支援ができるよう職員会議で具体的な支援方法を共有している	B	B		担当者会議や支援児の会に担当者以外の職員も参加し、一人一人の様子や支援方法について共有・検討する機会を設けていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園の職員一人一人が自分の役割に責任を持つとともにお互いに声を掛け合い協力して教育・保育を行っている	担当職員は各自の役割に責任を持ちながら、毎月の会議では行事や企画の進捗状況を報告し合い、全体的計画と照らし合わせながら教育・保育を行っている	B	B		行事や活動の進行において、分掌リーダーに負担が集中しやすい状況があるため、やることや準備、進捗状況を共有し特定の職員に負担が偏らないよう、職員が無理なく協力しながら進められる仕組みを整える
6 研　修	(1)研修体制の充実	園は「じっくり遊べる環境づくり」をテーマに保育実践と園内研修を行っている	ねらいや学びを確認しながら公開保育の園内研修を進めていった。研修テーマに基づき、保育の見直しも定期的に行っている。普段公開保育に参加できない職員にもクラス保育を客観的に見ることができるよう、カジュアル公開保育を実施した	A	A		カジュアル公開保育の有効な活用方法を提示・職員間で共有し、年度当初から実施していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は子どもの発達や季節に応じた遊び環境の改善に取り組んでいる。 園は玩具や教材、道具などを大切に扱いたくなる環境を整えている。	期の構想会議などを通し、子どもの発達や遊びの姿に応じた環境の見直しを行っている。物を大切に扱うために道具や素材の置き場所を可視化し、子どもが自身で出し入れできる環境を作った。また教材研究の園内研修を実施した	B	A		・保育者が主導することなく、子ども達に経験させたいことを考え再構成の準備を行う ・教材研究の研修を年間で計画、実施する
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は遊びを通して成長している子どもの姿や保育の意図について様々な方法で発信し、子どもの育ちについて保護者と共有している	送迎時、参加会、面談等で子どもの成長やエピソードを保護者に伝えている。コドモンでドキュメンテーションをタイムリーに配信し園での子どもの姿を共有し、廊下に掲示し園内でも共有できるようにした。ミニ園内研修で伝わりやすい文章の書き方について学び合った	A	A		・各クラスのドキュメンテーション配信（掲示）やミニ園内研修を積み重ねていく ・幼児組保護者と送迎時園での子どもの姿を伝えコミュニケーションを重ねていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は近隣園や近隣校と交流する機会を持ち、情報交換したり連携を図ったりしている	東高のふれあい体験・一中の職業体験の受け入れを行う。近隣園・校の公開保育・授業に参加、近隣園・校の職員が自園の公開保育に参加。西久保こども園と年長児同士が、清水待機児童園と2歳児同士が交流を重ねた。辻小学校との交流も重ね、様子を園内に掲示した	B	B		年度の始めから辻小学校や近隣園と連携し、交流計画を立て実施する。短時間での気軽な交流を年長児を中心に行っていく。また交流の様子を職員間、保護者とも共有していく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園はおしゃべりサロンの開催や勤労感謝訪問など、地域の方との交流を通し『地域のこども園』として親しまれている	未就園児を対象としたおしゃべりサロンを実施。はーとぴあで写真展、作品展を行い園で過ごす子どもの姿や教育・保育を地域に発信した。11月～S型デイサービスへ訪問、無理のない交流を行っている	A	A		参加への関心が高まるおしゃべりサロンの年間計画を立て、実施する。また年間計画の掲示やコドモンでの発信等おしゃべりサロンの周知を図る。来年度初めから年間を通してS型デイサービスへの訪問、交流を行う